

撒き餌漁をする鳥ササゴイの生態

熊本マリスト学園高等学校 サイエンス部

1 はじめに

水前寺公園や上江津湖では、ササゴイというサギ科の鳥が疑似餌を利用し魚をおびき寄せるなど知的な漁をすることが知られている。また、その行動はその地域の個体に受け継がれている（樋口・黒沢1993）。なぜこの地域のササゴイは優れた撒き餌漁を行うことができるのか、どうやって子孫に伝えているかに興味を持った。しかし、撒き餌漁は頻繁に観察できない。まずはこの地域のササゴイの生態を明らかにしようと考えた。

2 目的

水前寺公園・江津湖付近に生息するササゴイの生態を明らかにする。2012年度は次の4点を中心に調べる。(1) 巣の分布と巣をかける樹種、巣・営巣木の高さ (2) 巣での繁殖状況 (3) 巣・漁場での行動・観察例の集積(4) 県内での目撃・繁殖・撒き餌漁の状況および経年変化（文献調査）

3 方法

調査は2012年6月8日に開始し同年9月8日まで、週に2～3回、2時間程度行った。加えて、休日に月2回程度半日調査を実施した。9月8日以降は、月2回のペースで越冬個体がいらないかを調査している（12月現在）。

- (1) 熊本で目撃例が多い水前寺公園や江津湖、秋津方面の公園や公共施設、街路樹などの10m以上の高木がある場所で、ササゴイの巣の有無を調査した。調査した木は数百本以上である。
- (2) (1)で発見した巣の近くで週に2～3回、雛の育ちの状況、雛・幼鳥・成鳥の行動及び数の変動、巣を出入りする成鳥・幼鳥の行き来した方向を調査した。
- (3) 過去にササゴイが漁場として利用した場所でササゴイの行動・漁の様子を調査した。
- (4) 日本野鳥の会熊本県支部が保持されているデータをもとに、県内での目撃・繁殖・撒き餌漁の状況とその経年変化を調べた。

4 結果と考察

(1) 巣の分布と巣をかける樹種、巣・営巣木の高さ

方法(1)により、12か所でササゴイの巣を確認した（図1）。熊本テルサに6ヶ所と一番多くの巣が集中しコロニー性があることを確認できた。巣をかける樹種は、クスノキ（9本）、ケヤキ（3本）に限られていた（表1）。巣をかける木の高さは、11.4～26.5mであった。ケヤキの方が低い木でも巣をかけていた。巣の高

図1 巣の分布調査結果

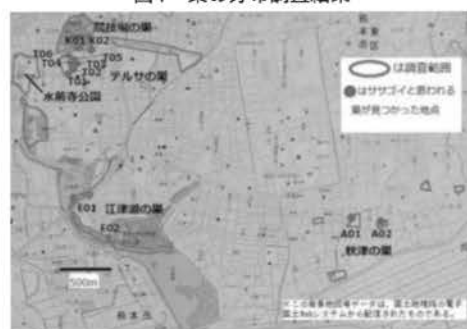
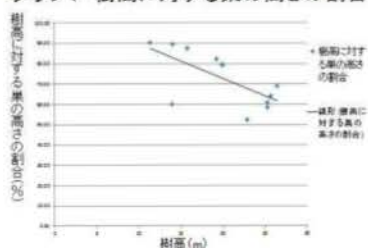


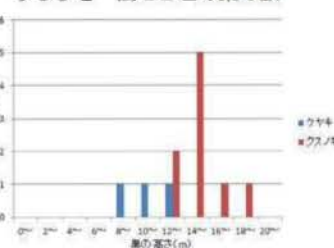
表1 水前寺公園・江津湖付近のササゴイの巣の樹種と高さ

番号	場所	樹種	距離 X(m)	角度 θ	木の高さ $h(m) = \alpha \times X \tan \theta$	巣の高さ $h'(m) = \alpha \times X \tan \theta'$	巣の利用
A01	秋津中央公園	クスノキ	19.5	36°	15.8	32°	13.8 X
A02	湯山津公園	ケヤキ	24.5	27°	14.1	24°	12.6 X
E01	植物園近く	クスノキ	26.7	43°	26.5	32°	18.3 X
E02	画図橋	クスノキ	17.6	45°	19.3	39°	15.9 X
T01	テルサ	クスノキ	19.6	43°	20.0	36°	15.9 O
T02	テルサ	クスノキ	22.8	46°	25.3	31°	15.4 O
T03	テルサ	クスノキ	22.8	46°	25.3	30°	14.8 O
T04	テルサ	クスノキ	25.7	43°	25.7	30°	16.5 O
T05	テルサ	ケヤキ	13.9	35°	11.4	32°	10.3 O
T06	テルサ	ケヤキ	15.2	39°	14.0	24°	8.4 O
K01	水前寺藝技場	クスノキ	16.6	52°	22.9	32°	12.0 O
K02	水前寺藝技場	クスノキ	21.0	41°	19.9	34°	15.0 X

グラフ1 樹高に対する巣の高さの割合



グラフ2 高さごとの巣の数



(2) 巣での繁殖状況

(3) 巣・漁場でのササゴイの行動

(4) 熊本県内での目撃情報分析

5 まとめ

表2 ササゴイの利用が確認された巣での繁殖状況

[illegible]

図2 熊本テルサでの飛翔記録

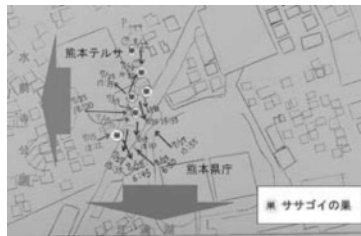


図4 熊本県内での目撃羽数
(1969-2012)



図3 漁場B(上江津湖)での行動記録



図5 熊本県内で撒き餌が見られた場所

